

株式会社 LIXILグループ  
**株 主 通 信**

2014年9月中間ご報告  
2014年4月1日～2014年9月30日



# Link to Good Living

## グループ経営理念 LIXIL TETRA

### LIXIL CORE (企業理念)

私たちは、優れた製品とサービスを通じて、世界中の人びとの豊かで快適な住生活の未来に貢献します。

### LIXIL VALUES (共有価値)

One LIXIL for Good Living ...  
一つにつながるValues

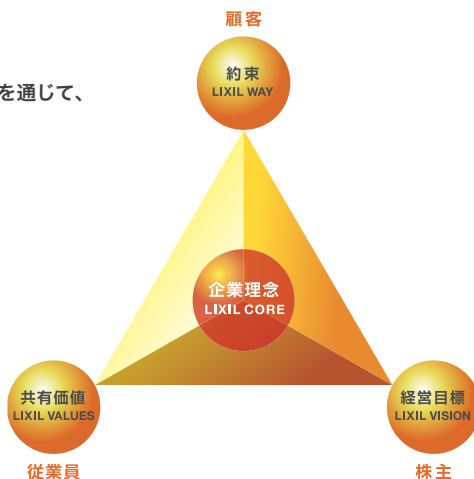
Work with Respect

Deliver on Commitment

Embrace Quality

Inspire Passion

Pursue Growth



### LIXIL WAY (私たちの約束)

- LIXILのありたい姿**  
地球と調和する「暮らしの理性」を創造する。  
[Link to the Earth](#)
- LIXILの使命**  
お客さまの、良い暮らしにつながる「絆」を作る。  
[Link to Good Living](#)
- LIXILの提供価値**

確かな品質 <a href="#">Link to Quality</a>	高い技術 <a href="#">Link to Technology</a>
美しい環境 <a href="#">Link to Environment</a>	豊かな感動 <a href="#">Link to Emotion</a>

### LIXIL VISION (経営目標)

住生活産業における  
グローバルリーダーとなる。

## ごあいさつ



取締役会議長

潮田洋一郎

消費税率引き上げの影響は、住宅産業にとっては大方の期待に反して甚大で、需要は新築でもリフォームでも大きく予想を下回りました。2回目の税率引き上げがどうなされるかにもよりますが、ここ数年は日本国内の住宅産業は、消費税を要因として厳しい状況を覚悟しなくてはなりません。

また、大きな流れでは日本は建築現場の労働力不足に直面し、産業規模で大きな変革を余儀なくされるでしょう。低賃金や集団生活を嫌った若者たちが、長い期間にわたり建築現場での仕事から遠ざかってしまいました。生産年齢人口の減少でこれが増幅され、大工や職人の技術が衰えることは避けられません。

こうした負の要素の中で、住宅産業は建物の品質を維持し、コストを上げないような抜本策を模索していくしかありません。建築現場の作業を節約するための建材開発、また、建築工程ごとの品質検査と瑕疵への対処など、新たなビジネスのチャンスがあるでしょう。日本で顕著になった現場の人材不足ですが、アジアの新興国でもいずれ同様の事態が予想されます。日本で先行して産み出される困難克服の努力は、将来海外展開で結実することでしょう。

家を建てるには、見えない所で膨大な事務作業があります。建築図面はデジタル化されていますが、そこから先はほとんど手作業です。図面をプリントしてから、使用する材料の量や寸法を人が長い時間を費やして拾い出す。それを業者が手作業で見積り、メーカーと再三交渉する。家1軒に200通を上回る手書きの見積書が必要となることを考えると、建築会社、流通、メーカーで事務に従事する人は数十万人規模でしょう。労働需給が逼迫する中で、旧態依然の手作業をなんとかできないか。これに着眼して開発を進めてきたシステムがようやく事業化され、K-engineという名称で当グループから独立しました。人力で延べ数百時間に及ぶ作業が、これによって数分で終わるといった画期的な方法です。

単品のメーカーを脱して世界各国で多種の建材を製作し、また川上から川下まで多くのサービス事業を網羅する当社の業態がこれからますます奏功するよう、努力してまいります。

株主の皆さまには温かいご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

TOP MESSAGE

## 真のグローバル企業を 目指して、統合シナジーを 発揮していきます。

### 当上期の業績と 通期業績予想

当上期は、今年5月に発表した中期経営計画「LIXIL G-16」の基本方針に基づき、国内事業ではリフォーム事業に注力し、海外事業では昨年買収したアメリカンスタンダード ブランズ (ASB) や今年1月に出資したグローエグループなどとのシナジーの創出、さらに全社で経営効率の改善に取り組んできました。

国内の事業環境は、4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減が大きく、住宅投資については上半期の新設住宅着工戸数が44万1千戸(前年同期比-12%)と持家を

中心に減少傾向を続け厳しい状態となり、この事業環境の落ち込みは、新築・リフォームともに当社の想定以上となりました。また、海外事業については、アジア事業は好調だったものの、カーテンウォール(ビルの外壁)事業で一部大型物件工事の工期ずれなどから、当上期は業績予想を達成することができませんでした。

売上高はASBの新規連結などにより前年同期比+7%の7,962億円となりました。営業利益は、市場の落ち込みによる国内売上減、今年2月の大雪の影響、リフォーム事業や構造改革などの先行投資による費用増から、前年同期比-49%の133億円となりました。四半期純利益は、

取締役 代表執行役社長 兼 CEO

藤森 義明

営業外費用として取得原価配分の未確定によるのれん等の暫定償却から持分法投資損益の悪化もあり、前年同期比-79%の38億円となりました。

通期の業績予想については、消費税率変更の影響など国内の経営環境を予想するのが非常に難しいため、リスクを見込んで幅を持たせた形で発表しました。売上高は国内減収・海外増収を想定し、営業利益は上期に業績未達となった約180億円分を、現在取り組んでいる経営効率の改善活動の加速などによって挽回し、期初予想を達成すべく努力し

ていきます。リスク込みの業績予想については、国内経営環境が新築・リフォームとともにさらに悪化するケースを想定したものです。

### グローバル・マネジメント・コミティでの議論

当社が真のグローバルカンパニーへと進化する上で、経営のグローバル化を強化・推進するために、4月に(株)LIXILの最高経営執行体としてグローバル・マネジメント・コミティ(GMC)を発足させました。これにより、M&Aでグループ入りした企業に

も経営に積極的に参画してもらい、国籍に関係なく活躍できる仕組みができました。

GMCでは、主に2つの議題について話し合ってきました。

- 新しく世界に共通するLIXILバリューを作ること
- 世界水回り戦略

LIXILバリューについては、LIXIL自身が3年前国内5社の統合で立ち上がった会社であり、その際に作ったLIXILバリューのもと全役職員が共通の価値観を持って事業を推進してきました。昨年度にグループ入りしたASBやグローエもそれぞれのバ

#### 第2四半期累計(上期)の実績

(単位:億円)

	14年3月期 上期実績	15年3月期上期			
		予想※1	実績	前年同期比	予想比
売上高	7,415	8,350	7,962	7.4%	△4.6%
営業利益	260	310	133	△48.8%	△57.2%
四半期純利益	178	190	38	△78.9%	△80.2%

※1 2014年5月7日公表数値です。

#### 通期の業績予想

(単位:億円)

	14年3月期 実績	15年3月期予想※2			
		据え置き	リスク込み	前期比	
				据え置き	リスク込み
売上高	16,287	17,150	16,900	5.3%	3.8%
営業利益	691	800	670	15.8%	△3.0%
当期純利益	448	490	400	9.5%	△10.6%

※2 2014年10月14日公表数値です。

## 社長メッセージ

リユーを近年定めていました。ここで、大きくなった全グループの役員が、国籍・言語・さまざまなバックグラウンドを越えて、世界のどこに行っても皆が持っている共通の理念が必要であると考え、活発な議論の末、10月に新しい“LIXIL VALUES”が完成しました。P1左下に掲載していますので、ご覧ください。

世界水回り戦略については、さまざまな議論を重ねた結果、LIXIL全体を新事業モデルに移行させることを決定しました。

### LIXILの新事業モデル

LIXILは安定した収益力のある成長を目指して、2015年4月1日より、イノベーションとテクノロジーリーダーシップを重視した新しい事業モデルをスタートする予定です。各事業を世界的な視点で一体運営していくことで、相乗効果の最大化を図ります。

LIXILの基本構造を、4つのテクノ

ロジーカンパニーと、国内の販売・サービスを担う「LIXILジャパンカンパニー」の新しい事業モデルに移行します。新たな事業モデルを効果的に実現するため、持分法適用会社であるグローエグループを当初計画より早め、2015年4月1日にLIXILグループの連結子会社化することを目指します。

新しい事業モデルに移行する目的は、**1) グローバル化の加速、2) 世界レベルでの人材活用、3) カンパニー間のシナジーによるLIXILの強みの最大化**の3つです。

この中で特徴的なのは、水回り事業を統合して「LIXILウォーターテクノロジー」を立ち上げることです。現在それぞれ独立性をもって事業展開する日本、中国、その他アジア地域における水まわり事業、およびグローエグループとアメリカンスタンダード ブランズの指揮系統を世界統合し、より速い意思決定、経営の効率化、およびシナジーの加速を目指します。売上高約6,200億円、営業利益率10%以上を見込み、

水回り事業のグローバルリーダーとしてさらなる成長を目指します。

「LIXILハウジング テクノロジー」は、サッシ・ドア、インテリア、エクステリア、外壁・構造体、タイル、創エネなどを扱う日本の住宅建材業界のビジネスリーダーとして、売上高約6,000億円、営業利益率約8%を見込みます。アジア各地の生産拠点の効率的な運営と、将来性のある海外地域への事業拡大を図ります。

「LIXILビルディング テクノロジー」は、カーテンウォールおよびビルの窓や内装分野のグローバルリーダーであり、約3,400億円の売上高と営業利益率約3%を見込みます。ペルマステリリーザ、上海美特カーテンウォール、日本のビル事業で構成されます。

「LIXILキッチン テクノロジー」は、日本のキッチン事業でトップシェアを誇り、中国ではハイアールとの合併会社により事業基盤を整えています。売上高は、日本と中国を合わせて約1,200億円を見込みます。

「LIXILジャパンカンパニー」は、現

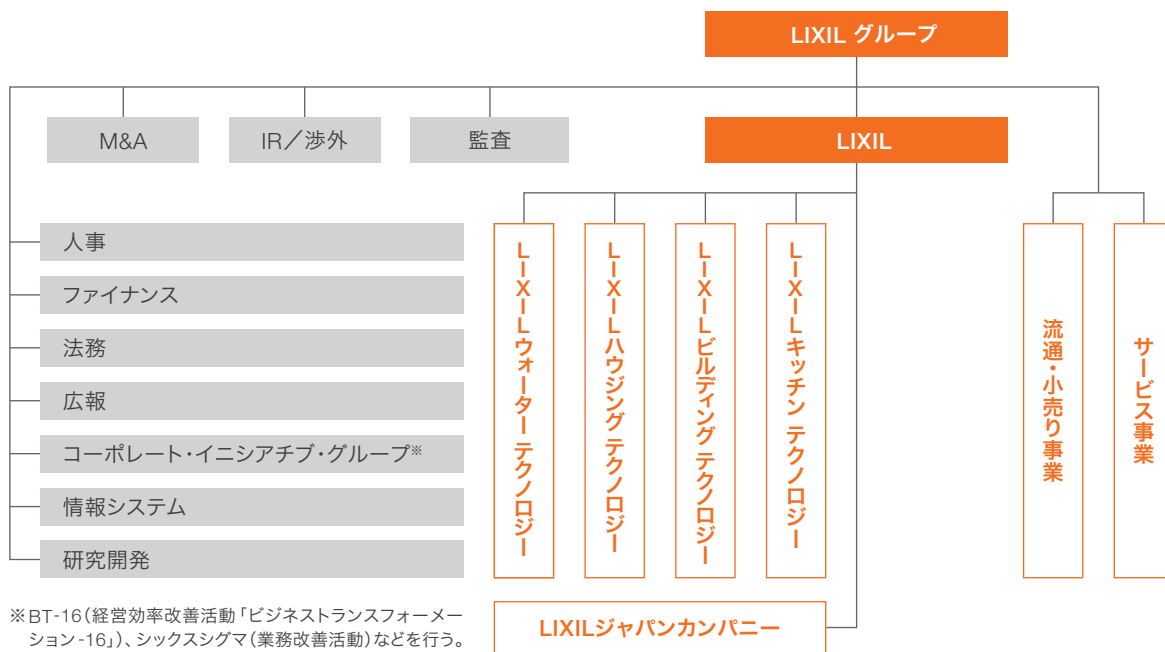
在の構造を継続し、日本の顧客のための「トータルソリューション」戦略を追求していきます。リフォーム市場に重点を置きながら、各カンパニーとシナジーを創出し、専門性の強化と製品・サービスのトータルソリュー

ション戦略を軸とした総合化を目指し、売上高約1兆円を見込みます(4つのテクノロジーカンパニー合計のうち、日本での売上)。

株主の皆さまには、大きく変化していくLIXILグループに対し、今後と

も温かいご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

新LIXILグループ体制 (2015年4月1日開始)





“日本の窓を、変える。”  
LIXILの窓

窓の可能性を広げるために、  
LIXILは、  
ラインアップを続々拡充していきます。





# ERSTER X

2015年  
1月発売

## 高性能樹脂窓「エルスターX」

「エルスターX」は、新構造の樹脂フレームにトリプルガラスを搭載した次世代の高性能樹脂窓です。これにより世界トップクラス・国内最高の断熱性能<sup>\*1</sup>を実現しました。新構造の樹脂フレームは、樹脂窓で業界一スリム<sup>\*2</sup>なフレームを実現したことで、ガラス面積を従来に比べ約10%拡大しています。また、フレームの見込み寸法を従来に比べ約1.8倍大きくすることで、断熱性と強度を両立しました。さらに、フレームの中空層(ホロー)を多層化することで高い断熱性能を実現しました。

※1 自社調べ/国内サッシメーカー樹脂窓比較(2014年8月27日現在)

※2 縦すべり出し窓の縦框において(2014年8月27日現在)

 [http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/010\\_door\\_0827\\_01.html](http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/010_door_0827_01.html)

# SAMOS X

2015年  
3月発売

## 高性能ハイブリッド窓「サーモスX」

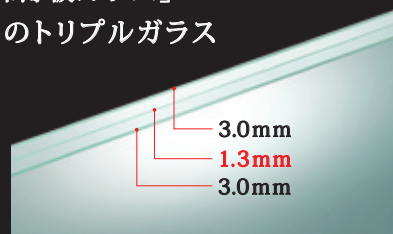
「サーモスX」は、アルミに代わり日本で主流となりつつある、アルミと樹脂の複合構造をベースに、断熱性を飛躍的に向上させた次世代の高性能ハイブリッド窓です。LIXILのスタンダードクラスの窓「サーモス」の最大の特長である、フレームを極限まで細くし、ガラス面積を最大化する「スマート・シナジー・システム(特許取得済)」の採用に加え、高い断熱性能を可能にする新構造のハイブリッドのフレーム、さらにはトリプルガラスを搭載したことで、従来のアルミ樹脂複合窓では実現できなかった樹脂窓同等の断熱性能を可能にしました。

 [http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/010\\_door\\_0827\\_02.html](http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/010_door_0827_02.html)

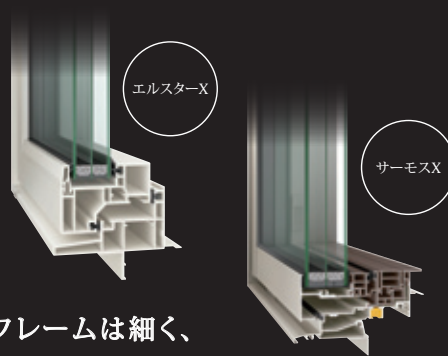
## “世界トップクラス、国内最高” の断熱性能

01

業界初  
「特殊薄板ガラス」  
採用のトリプルガラス



02



フレームは細く、  
ガラス面積は最大に

フレームの中空層(ホロー)を多層化することで  
高い断熱性能を実現

 [http://www.lixil.co.jp/lineup/window\\_shutter/lixil\\_window/](http://www.lixil.co.jp/lineup/window_shutter/lixil_window/)

日本のリフォームをもっと簡単に

## ひと部屋からできる 断熱リフォーム ココエコ

わずかな薄さでおおきな断熱効果を発揮する  
「真空断熱材」を壁パネルと床パネルに採用。

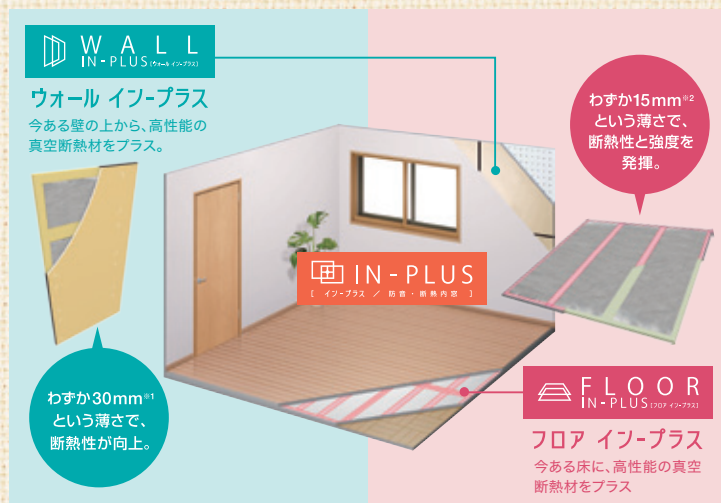


### ココだけ簡単快適エコリフォーム

[http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/065\\_method\\_0528\\_02.html](http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/065_method_0528_02.html)

4地域  
(旧Ⅲ地域)  
以南

省エネ基準  
(平成25年基準)  
地域区分



※1 ウォール インプラスの厚さで、真空断熱材の厚さは12mmです。

※2 フロア インプラスの厚さで、真空断熱材の厚さは12mmです。

「ココエコ」は、「暖房しても足元が暖まらない」、「夏の西日が強くエアコンの効きが悪い」といった住まいの困りごとを解決する、LIXILの新発想リフォーム工法です。このたび、「ココエコ」で使用する断熱パネル「ウォール インプラス」のモデルチェンジを行い、対象エリアを東北以南※1に拡大、リフォーム工事を、最短1日で実施することが可能となりました。防音・断熱内窓「インプラス」に加え、厚さ215mmの一般的な断熱材(グラスウール16kg)の断熱性能に相当※2する、“厚さ12mmの真空断熱材”を採用した断熱パネル「ウォール インプラス」(パネル厚30mm)「フロア インプラス」(パネル厚15mm)を使用し、窓・壁・床の断熱リフォームが、部屋の内側から“一部屋単位”で簡単にできるのが特長です。

※1 平成25年省エネ基準地域区分4地域以南(旧Ⅲ地域以南)

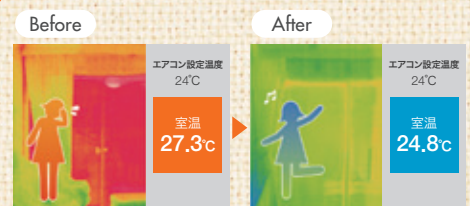
※2 JIS A 1412-2 HFM法の測定値による比較

## キッズデザイン賞を 受賞しました！



「第8回キッズデザイン賞」(主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会、後援:経済産業省)において、「ココエコ」を含むLIXILの計8商品が、子どもの安全安心に配慮した設計や機能が評価され、3部門でキッズデザイン賞を受賞しました。今回の受賞により、LIXILでは8年連続でキッズデザイン賞の受賞となりました。

[http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/070\\_company\\_0708\\_01.html](http://newsrelease.lixil.co.jp/news/2014/070_company_0708_01.html)



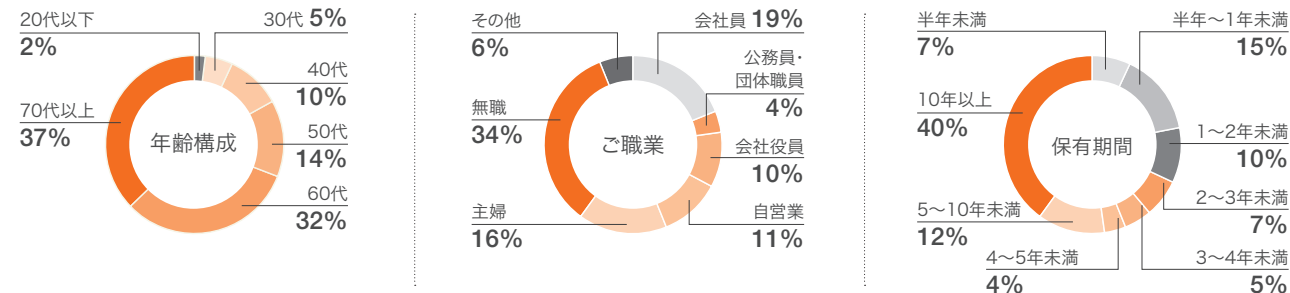
部屋の断熱性能が高まることで、年間の冷暖房費を最大約30%削減することができます。窓や壁の結露も起こりにくくなり、カビやダニなどの発生も抑え、より健康的な空間にすることができます。

※「ココエコ」で断熱リフォームした部屋を対象とし、熱負荷計算プログラム「SMASH」((財)建築環境・省エネルギー機構)を用いて、リビングにおける年間冷暖房削減効果を算出。

## 株主さまアンケート結果

6月に実施した株主さまアンケートでは、返信数10,746通、回答率23%と非常に多くの株主さまからご回答と貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。ご回答の集計結果の一部をご報告します。

### 1 ご回答者について



### 2 当社株式の買い増しまたは継続保有をされている方へ、その理由(上位7位)

順位	項目	割合	9,465名中 回答割合
1	将来性・成長性に期待しているため	55.4%	55.4%
2	業績の安定性に期待しているため	17.6%	17.6%
3	当社のファン	5.8%	5.8%
4	含み損状態にあるため	5.3%	5.3%
5	業界で高いシェア	5.0%	5.0%
6	含み益が出ているため	3.2%	3.2%
7	株主優待制度があるから	2.2%	2.2%

### 3 株主さまからのご質問にお答えします。

**Q** 自社株買いと自己株式の消却の方針を教えてください。

**A** 当社は「機動的に自社株買いを行う」方針としています。その時々のカッシュ・フローの状況や株価を見ながら、必要な時に取締役会決議によって行う予定です。自己株式の消却については、自己株式を将来 M&A 実施時の株式交換に使う可能性があることやストックオプションへの割当があるため、現時点では予定はありません。

### 4 当社へのご意見、ご要望について

今回も当社への多くの励ましや期待のお言葉をいただき、ありがとうございます。昨年からは開始した株主優待について、74%の方が「良い・どちらかといえば良い」とご回答の一方、「悪い」と回答された方から「より使いやすくなるよう変更してほしい」とのご意見が複数ありました。このような声を受けて、リフォーム株主優待について、どの工事店さまで行ったリフォームも優待の対象と変更しましたので、詳細は裏表紙をご覧ください。

その他、株価上昇・増配・LIXILの知名度向上・シャワートイレの海外での普及への要望も多数いただきました。

# 営業報告

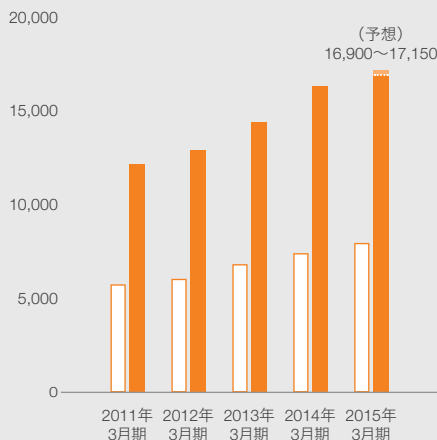
## 主な経営指数の推移<連結>

	当第2四半期 累計期間 自2014年4月 1日 至2014年9月30日	前第2四半期 累計期間 自2013年4月 1日 至2013年9月30日	前期 自2013年4月 1日 至2014年3月31日
売上高(百万円)	<b>796,178</b>	741,512	1,628,658
営業利益(百万円)	<b>13,283</b>	25,966	69,079
経常利益(百万円)	<b>13,063</b>	28,951	74,937
四半期(当期)純利益(百万円)	<b>3,757</b>	17,777	44,755
総資産(百万円)	<b>1,768,486</b>	1,578,102	1,810,097
純資産(百万円)	<b>619,301</b>	593,498	625,599
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	<b>39,665</b>	29,071	83,532
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	<b>△23,450</b>	△62,526	△218,332
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	<b>△20,715</b>	34,080	153,144
現金及び現金同等物の四半期(当期)末残高(百万円)	<b>130,833</b>	118,194	139,038
自己資本比率(%)	<b>34.5</b>	37.2	34.1
自己資本当期純利益率[ROE](%)	<b>—</b>	—	7.6
1株当たり四半期(当期)純利益[EPS](円)	<b>12.85</b>	61.14	153.93
1株当たり純資産[BPS](円)	<b>2,080.88</b>	2,019.30	2,123.22
1株当たり四半期(年間)配当金(円)	<b>30</b>	25	55

### 売上高

(単位:億円)

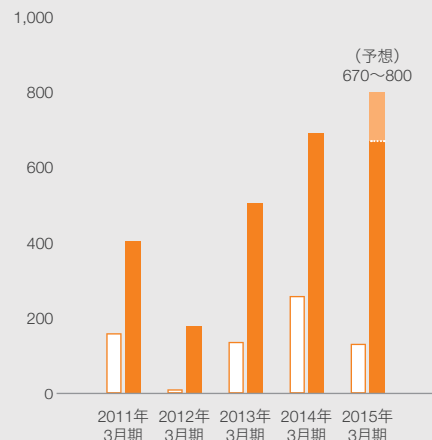
□ 第2四半期累計  
■ 通期



### 営業利益

(単位:億円)

□ 第2四半期累計  
■ 通期

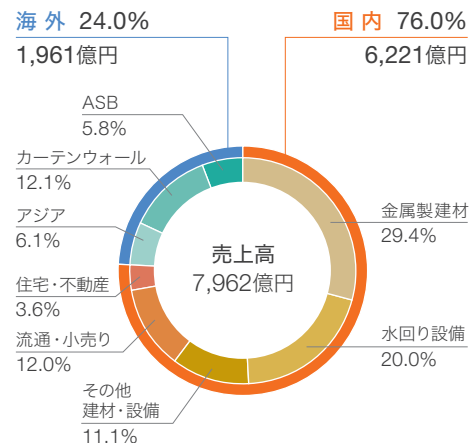


## セグメント情報

### セグメント別の営業状況

		当第2四半期 累計期間(上期) (億円)	前第2四半期 累計期間 (億円)	前年 同期比 (%)
<b>売上高</b>		<b>7,962</b>	7,415	7.4
国内事業	金属製建材事業	2,402	2,387	0.6
	水回り設備事業	1,636	1,704	△3.9
	その他建材・設備事業	911	960	△5.1
	流通・小売り事業	979	938	4.4
	住宅・不動産他事業	293	309	△5.0
海外事業	アジア事業	496	412	20.3
	カーテンウォール事業	991	915	8.3
	ASB事業	474	—	—
(調整額)		△220	△209	—
<b>営業利益</b>		<b>133</b>	260	△48.8
国内事業	金属製建材事業	142	186	△23.7
	水回り設備事業	47	111	△57.5
	その他建材・設備事業	28	43	△34.1
	流通・小売り事業	35	17	110.2
	住宅・不動産他事業	21	29	△28.1
海外事業	アジア事業	14	△5	—
	カーテンウォール事業	13	7	76.4
	ASB事業	12	—	—
(調整額・のれん償却・取得原価)		△179	△128	—

### 売上高内訳(当上期)



### 報告セグメントの変更について

今期より国内と海外の事業を区分しました。「国内事業」は従来と同じ名称の金属製建材、水回り設備、その他建材・設備、流通・小売り、住宅・不動産他の5区分とし、「海外事業」はアジア事業、カーテンウォール事業(ビルの外壁)、ASB(アメリカンスタンダード ブランズ)としました。また、管理部門に係る費用を調整額として全社費用に計上する方法に変更しています。さらに、ここでのセグメント別営業利益については「のれん償却、取得原価配分前セグメント利益」を記載しています。

## セグメント情報

### [国内事業]

#### 金属製建材事業

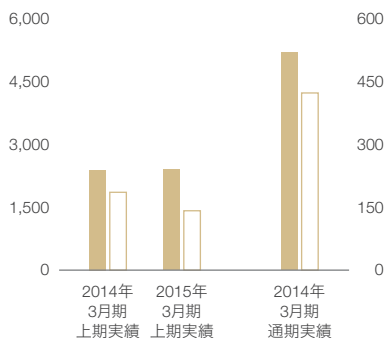


新築住宅着工が減少する中、エクステリア建材の伸長などにより0.6%の増収となりましたが、顧客ミックスの悪化や2月の大雪の影響、資材価格高騰などによるコストアップなどから営業利益は23.7%の減益となりました。新築が減少する中、当社はリフォームに注力しており、特に玄関ドア「リシェント」(写真)はテレビCM実施以降、売上が伸びています。

#### 売上高・営業利益の推移

(単位:億円)

■ 売上高(左軸)  
□ 営業利益(右軸)



#### 水回り設備事業



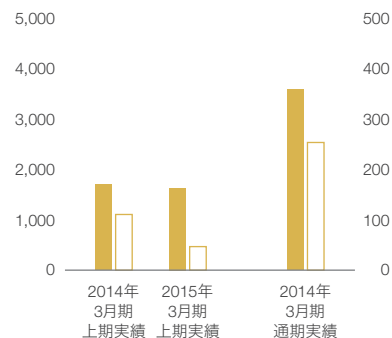
2月の大雪でキッチン製造の深谷工場(埼玉県)が被害を受け、供給制約と対応費用が発生しました。さらに構造改革などのための先行投資負担などもあり、売上高は3.9%の減収、営業利益は57.5%の減益となりました。

8月に発売した戸建用システムバスルーム「スパーージュ」(写真)は、「肩湯」「打たせ湯」などの機能を搭載して好評です。

#### 売上高・営業利益の推移

(単位:億円)

■ 売上高(左軸)  
□ 営業利益(右軸)



## その他建材・設備事業



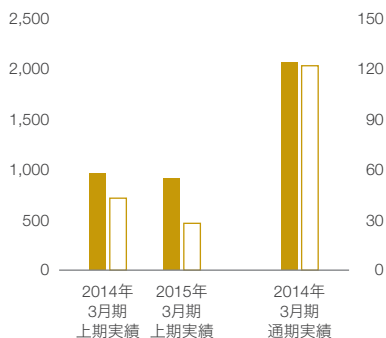
消費税増税に伴う駆け込み需要の反動減により売上高は5.1%の減収、営業利益は34.1%の減益となりました。

エアクリーニングウォール「エコカラットプラス」(写真)は、室内を快適な湿度に調湿し、気になる臭いや有害な物質も低減させ、さらに清掃性も向上した点が評価され、2014年度グッドデザイン賞を受賞しました。

売上高・  
営業利益の推移

(単位:億円)

■ 売上高(左軸)  
□ 営業利益(右軸)



## 流通・小売り事業

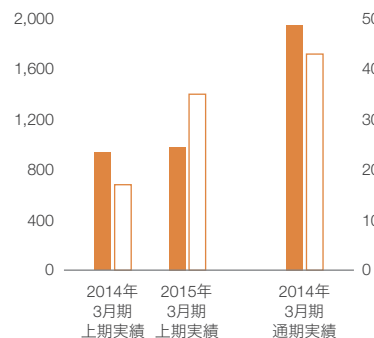


会員制建材卸店の建デポ事業の伸長や、超大型ホームセンターのスーパービバホームを昨年度に4店新規出店した効果により、売上高は4.4%の増収、営業利益は店舗効率の改善なども加わり2.1倍の増益となりました。建デポ事業は今年度は黒字化を目指しています。9月末の店舗数はホームセンター84店、建デポプロ64店となりました。

売上高・  
営業利益の推移

(単位:億円)

■ 売上高(左軸)  
□ 営業利益(右軸)



## 住宅・不動産他事業

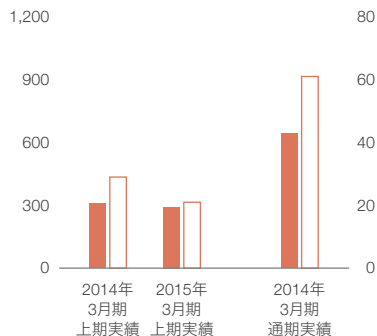


住宅FCを展開するLIXIL住宅研究所(写真は「レジリエンス住宅 CH14」)は、消費税増税による駆け込み需要反動減の影響により減収減益。日本住宅保証検査機構(JIO)は新築、既存瑕疵保険契約件数の増加で増収となりました。地盤調査・地盤補強工事のジャパンホームシールド(JHS)は住宅着工の大幅減少で減収となりました。

### 売上高・営業利益の推移

(単位:億円)

■ 売上高(左軸)  
□ 営業利益(右軸)



## [海外事業]

## アジア事業

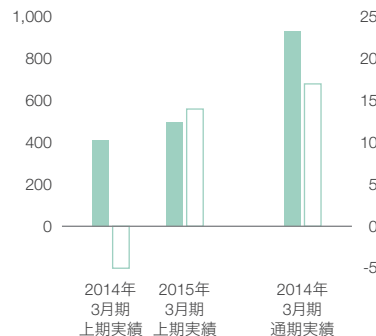


アジア事業では販売活動に注力したことなどから20.3%増収、粗利率改善に努めたことなどから営業利益は黒字に転換しました。アジア・パシフィック地域で最大となる旗艦ショールーム(写真)をタイにオープンし、およそ2,200㎡のスペースには幅広い商品を総合的に展示しており、LIXIL、アメリカンスタンダード、INAX、トステムの4つのブランドを取り揃えています。

### 売上高・営業利益の推移

(単位:億円)

■ 売上高(左軸)  
□ 営業利益(右軸)

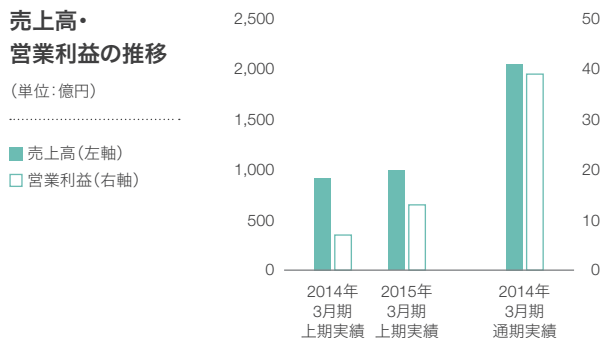




## カーテンウォール事業



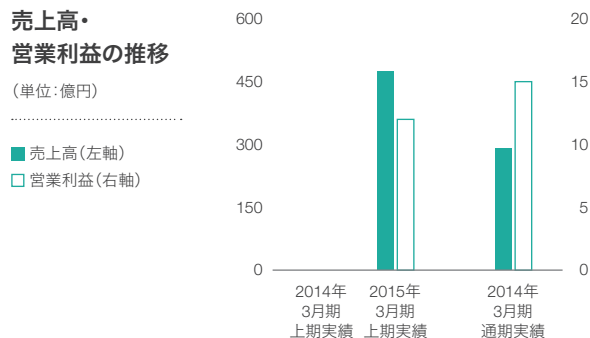
カーテンウォール事業においては、為替換算影響等により売上高は8.3%の増収となりました。ペルマスティリーザではお客様の設計変更などによる大型物件工事の工期ずれの影響により計画未達となったものの、米国と英国での売上と受注の増加に伴い、受注物件の粗利率は改善してきています。



## ASB事業



ASB(アメリカンスタンダード ブランズ)事業は、前第2四半期に株式取得し新規連結となり、売上高は474億円、営業利益は12億円となりました。北米最大の水回り関連卸業者のファーガソン社と2014年から販売提携をしており、シャワートイレを含む高付加価値商品を「DXV」ブランドで販売していくため、ファーガソンのショールームの改装を進めています。



※ アメリカンスタンダード ブランズ事業は2013年8月20日にグループに入りました。よって2014年3月期のASB事業は4カ月分の業績となります。

## 株式の状況 (2014年9月30日現在)

### 株式数および株主数

発行可能株式総数	1,300,000,000 株
発行済株式の総数(自己株式19,810,284株を除く)	293,243,971 株
株主の総数	54,568 名

### 大株主

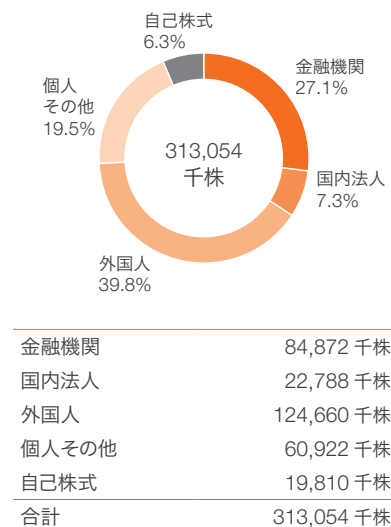
株主名	持株数 (千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口	9,769 <sup>**</sup>	3.33%
野村信託銀行(株)信託口	8,896 <sup>**</sup>	3.03%
日本マスタートラスト信託銀行(株)信託口	8,844 <sup>**</sup>	3.02%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人香港上海銀行東京支店)	8,614	2.94%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー (常任代理人(株)みずほ銀行決済営業部)	7,128	2.43%
第一生命保険(株)	6,561	2.24%
LIXIL 従業員持株会	6,517	2.22%
MSCO CUSTOMER SECURITIES (常任代理人モルガン・スタンレー MUFG 証券(株))	5,961	2.03%
(株)三菱東京UFJ銀行	5,798	1.98%
(株)三井住友銀行	5,543	1.89%

(注) 1. 上記の他に当社は自己株式19,810千株を所有しています。持株比率は、自己株式を控除して計算しています。  
2. ※はすべて信託業務に係るものです。  
3. 野村信託銀行(株)信託口8,896千株は潮田洋一郎氏が委託した信託財産であり、信託契約上、議決権の行使については同氏が指図権を留保しています。

### 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
株主確定日	定時株主総会議決権行使株主・期末配当金受領株主 3月31日、 中間配当金受領株主 9月30日 上記のほか必要ある場合は予め公告して基準日を設定。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL: <a href="http://www.lixil-group.co.jp/ir/koukoku.htm">http://www.lixil-group.co.jp/ir/koukoku.htm</a>
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711(通話料無料)
1単元の株式の数	100株
上場取引所	東京証券取引所・名古屋証券取引所

### 所有者別分布状況



#### 【お知らせ】

- 株主さまの住所変更、買取請求、買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行、電話0120-232-711(通話料無料))にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。
- 配当金の口座振込をご指定の株主さまと同様に、「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられる株主さま宛にも「配当金計算書」を送付いたしております。「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。なお、配当金を証券口座でお受け取り(株式数比例配分方式)の株主さまは、お取引のある証券会社でご確認ください。

## 会社概要 (2014年9月30日現在)

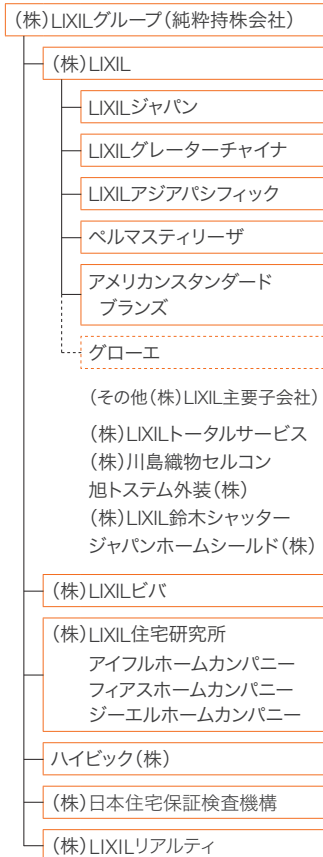
### 会社概要

社名	株式会社 LIXILグループ
英文社名	LIXIL Group Corporation
設立年月日	1949年(昭和24年)9月19日
本店	〒136-8535 東京都江東区大島二丁目1番1号
本社事業所	〒100-6036 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階
資本金	68,121百万円
決算期	3月31日
従業員数	107名(連結従業員数 52,231名)
主な事業内容	国内外の住生活関連事業・都市環境関連事業を営む会社の株式または持分を取得、所有することによる当該会社の事業活動の支配、管理を行っております。

### 取締役

取締役	潮田 洋一郎
取締役	藤森 義明
取締役	筒井 高志
取締役	金森 良純
取締役	菊地 義信
取締役	伊奈 啓一郎
社外取締役	數土 文夫
社外取締役	佐藤 英彦
社外取締役	川口 勉
社外取締役	幸田 真音

### 主なグループ会社・事業



### お問い合わせ先

#### 株式についてのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行：証券代行部 0120-232-711(左記「株主メモ」ご参照)

LIXILグループ：法務部 03-3638-9300

#### 本誌の内容についてのお問い合わせ

LIXILグループ：IR室 03-6268-8806

#### 株式会社LIXILの商品に関するお問い合わせ

お客さま相談センターのフリーダイヤルで承ります。ブランドごとに電話番号が異なりますのでご注意ください。  
受付時間 平日 9:00~18:00、土日祝日 9:00~17:00 (ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

- トステム・新日軽・TOEXブランド共通 ☎0120-126-001
- INAXブランド ☎0120-179-400
- サンウエーブブランド ☎0120-190-521

### 免責事項

この株主通信には、(株)LIXILグループの将来についての計画と予測の記述が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要素を含んだものであり、実際の業績はさまざまな重要な要素により当社の計画・予測と大きく異なる結果となる可能性があります。

# 株主優待のお知らせ

株主の皆さまのご支援、ご愛顧に感謝するとともに、より多くの株主の皆さまに事業に対するご理解を一層高めていただくことを目的として、株主優待を実施しています。

2014年9月30日現在の当社の株主名簿に記載または記録されている100株(1単元)以上を保有されている株主さまへ、「株主優待制度ご利用ガイド2014」と「リフォーム株主優待申請書」を本誌に同封してお送りしています。今回も①リフォーム株主優待、②生活サービス株主優待の2種類としています。株主の皆さまのご利用をお待ちしています。

## ① リフォーム株主優待

多くの株主さまからのご要望にお応えして「日本国内の工事店が国内で行った、対象LIXIL商品を使ったリフォーム工事について、申請していただいた方に3万円・5万円・10万円のいずれかの金額の商品券をご送付」と変更しました。リフォーム実施後、リフォーム株主優待申請書に必要事項をご記入の上、必要書類とともにリフォーム株主優待事務局へご送付をお願いいたします。

## ② 生活サービス株主優待

昨年度同様、当社の関連会社(株)くらしテルが提供する下記メニューのうちいずれか1種類について、税込価格から3,000円の割引をします。割引券は「株主優待制度ご利用ガイド2014」の巻末にあります。

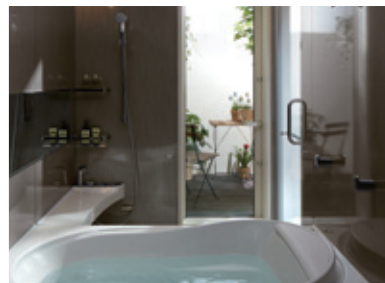
### (1) ハウスクリーニング

(エアコン・換気扇・キッチン・バスルーム等8種類の中から1つ)

### (2) 9カ月保管付き衣類クリーニング



詳細は同封の「株主優待制度ご利用ガイド2014」をご覧ください。



## 株式会社 LIXILグループ

本店 : 東京都江東区大島二丁目1番1号  
本社事業所 : 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階  
ホームページ : <http://www.lixil-group.co.jp/>